

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-135	21-063	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Maternal personality and alcohol use during pregnancy in Japan: The Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study</p> <p>日本における妊娠女性のパーソナリティと妊娠中の飲酒行動の関連：東北メディカル・メガバンク機構の三世代コホート調査より</p>		
<b>執筆者</b>		
Murakami K, Ishikuro M, Ueno F, Noda A, Onuma T, Matsuzaki F, Metoki H, Obara T, Kuriyama S.		
<b>掲載誌</b>		
Addict Behav. 2021 Nov;122:107020. doi: 10.1016/j.addbeh.2021.107020.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
飲酒 日本 妊娠女性 性格検査	34166996	
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>妊娠中の飲酒は胎児に悪影響を及ぼすため、妊娠中の飲酒リスクが高い女性の特徴を明らかにすることは、効果的な介入のために重要である。一般集団では、パーソナリティが妊娠中の飲酒行動の重要な予測因子とされているが、先行研究では妊娠中の一時点でのみ検討されており、かつ、欧米からの報告に限られている。そこで本研究では、日本における妊娠女性のパーソナリティと飲酒行動の関連を明らかにすることを目的とした。</p> <p><b>方法：</b>2013-2017 年の東北メディカル・メガバンク機構の三世代コホート調査の参加者のうち 17,144 名の妊娠女性を対象とした。パーソナリティは、簡易版アイゼンク性格検査改訂版を用い、4つのパーソナリティ尺度（外向性尺度、精神病傾向尺度、神経症傾向尺度、虚偽発見尺度）を評価した。飲酒行動は、妊娠初期（妊娠 14 週未満）および中期（妊娠 14-27 週）の飲酒あり／なしに基づき、妊娠初期の飲酒、中期の飲酒、また初期から中期の継続した飲酒の有無に分類した。各パーソナリティ尺度 1 標準偏差増加に対する飲酒ありの調整オッズ比（OR: 年齢、学歴、就業の有無、不妊治療歴、出産歴で調整）および 95%信頼区間（CI）を、妊娠初期・中期・継続した飲酒別に求めた。</p> <p><b>結果：</b>外向性尺度が高いほど、妊娠初期（OR, 1.16; 95% CI, 1.12-1.20）および妊娠中期（OR, 1.17; 95% CI, 1.10-1.25）の飲酒リスクが高かった。精神病傾向尺度が高いほど、継続した飲酒（OR, 1.07; 95% CI, 1.01-1.14）および妊娠中期（OR, 1.07; 95% CI, 1.02-1.13）の飲酒リスクが高かった。一方、神経症傾向尺度は、妊娠初期・中期の飲酒のいずれとも関連はなかった。また、虚偽発見尺度が高いほど、妊娠初期（OR, 0.95; 95% CI, 0.91-0.98）の飲酒リスクは低かった。</p> <p><b>結論：</b>日本人の妊娠女性において、妊娠初期・中期の飲酒リスクは、パーソナリティにより異なっていた。本研究結果より、妊娠女性のパーソナリティを把握することは飲酒予防に対する効果的な介入を考える上で役立つ可能性が示唆された。</p>		